

である。

2) 成果重視のモニタリング

本プロジェクトの場合、活動レベルではプロジェクト活動の中でデータを取りまとめるなどの努力を払いその実績が定期的に取りまとめられ、記録されていた。しかし、職業訓練分野の統計実績（資格取得率、就業率等）を除くと成果レベルのモニタリングには同様の注意が払われてこなかったため、成果の達成が困難で計画の修正が必要となった時にも達成目標の変更や成果達成にむけた活動内容の変更が意識的に記録されなかった。各活動だけでなく、活動が成果を生み出しているのかどうか、方向性の修正の可否を実施プロセス内で確認する方法について工夫する必要がある。

3) PDM 修正の手順についての合意

当初作成したPDMどおりに活動を実施することが困難な場合や成果を実現するための道筋を変更する必要が生じたときのことは想定されていなかったため、計画の修正を行う手順が定められていなかった。また、実施を担当する実務者（カウンターパート）が修正の可能性を認識していなかった。本プロジェクトでは定期的に合同調整委員会が開催され、JICA および TESDA 本庁に対して活動進捗の報告がなされていたので、そのような機会に必要であれば計画の見直しや修正を行うことを JICA から提言する必要があったと思われる。

4-2 評価5項目の評価結果

4-2-1 妥当性

(1) フィリピンのジェンダー政策との一致

本案件は Executive Order No. 273 “Philippine Plan for Gender-responsive Development 1995-2025” に沿っており、またアロヨ大統領の「10 point agenda」における「起業家の支援を通じた 600 万人の雇用の創出」にも一致している。

TWC では男女の雇用機会均等を目指し、男性固有の職域といわれている自動車整備、溶接などの分野への女性の進出を助長すべく、訓練コースを開設している。また広報活動等を通じて職場における男女差別の撤廃、セクシャル・ハラスメントの根絶なども訴えている。

(2) 日本の ODA 政策との一致

事前評価調査時に、本案件の方向性は国別援助計画(フィリピン)における「弱者への支援」と一致していることが確認されている。

TWC では、ジェンダー偏見により男性と同じ能力を持ちながら就職できない女性を支援すべく、広報による訓練生の能力のアピールなどを実施している。

(3) 利害関係者のニーズとの一致

TWC が提供している訓練コース及びその他のサービスは、就職や起業をしたいと考えている女性のニーズと合致している。また TWC の訓練生は質が高いことで産業界から評価されており、産業界のニーズとも合致している。

TWC の訓練生はよく働くか？（パートナー企業）

	とても良い	良い	普通	回答計
卒業生	9	7	1	17
研修生	13	7	0	20

TWC の研修コースは有益か？（起業家）

とても役立つ	役立つ	普通	回答計
12	7	1	20

出所：質問票に対する回答結果から評価チーム作成

一般的にフィリピン女性の就業率が高い産業は、食品加工、電気・電子、宝飾品、繊維産業、ホテル・外食など、また女性が起業を目指す産業は裁縫、小売（食品・飲料）、手工芸、宝飾などであり、TWC ではこれらの産業向けのコースを実施している。

4-2-2 有効性

プロジェクト目標の達成度の項で述べたとおり、プロジェクト目標の指標は、現在のところ達成されている。訓練コースの種類、訓練時期により、就業率の差があるが、訓練コースの改善、新しい訓練コンセプト、起業家支援サービスの提供、パートナー企業とのネットワーク構築、労働市場の調査などは TWC の就業・起業率の向上に効果的であった。

しかしながら前述の通り、一部の成果（TESDA ジェンダー担当者への研修、政策提言など）は広く職業訓練分野のジェンダー主流化を促すことから、プロジェクト目標の達成よりも上位目標に直接的に貢献している。

訓練コースの質的な改善を直接的に測定することは困難であったが、訓練生、起業家、パートナー企業とも TWC の訓練にはほぼ満足しており、受益者満足の側面から見て質の高い訓練を提供していることが窺え、特にこの訓練コースの改善がプロジェクト目標達成に大きく貢献したと考えられる。

TESDA ジェンダー担当者の能力向上に関しては、6 名に確認したところ「ほとんど」との回答が 3 名、「ある程度」の回答が 3 名であり、基礎は身についたがもっと深く学びたいという傾向が窺える。

TWC の訓練生のスキルは十分か？（パートナー企業）

	とても良い	良い	普通	回答計
卒業生	12	3	2	17
研修生	13	7	1	21

TWC の訓練コースによる効果は？（起業家）

	十分	ほとんど	ある程度	回答計
理解度	14	6	1	21
能力の付与	8	10	3	21

TWC の訓練内容は？（訓練生）

	とても良い	良い	普通	回答計
講義	29	16	1	46
実習	19	25	2	46

TWC の訓練コースによる効果は？（訓練生）

	十分	ほとんど	ある程度	回答計
能力の付与	11	33	2	46

出所：質問票に対する回答から評価チーム作成

4-2-3 効率性

本案件はある程度効率的に実施されたと思われる。

本案件の投入はほぼ計画どおりに実施された。TWC 職員の訓練に関して、職業訓練コースの閑散期に集中的に行うことにより、TWC の機能を維持しながら能力の向上を測るなどの工夫が見られた。またセミナー等の費用の削減の努力も確認された。

具体例として、TWC 教官にとって時間的に余裕のある訓練コースの谷間の時期（2005 年 4-6 月）に TWC 教官に対する訓練を集中して行っていることや、セミナー開催時には少ないコストで最大限の効果を得るべく計画を何度も練り直しコストを抑える努力がなされていることが確認されている。

4-2-4 インパクト

(1) 上位目標の達成可能性

プロジェクトは既に「TESDA GAD イニシアティブ 2006-2010 (TESDA GAD Initiative for 2006-2010)」の策定に影響を与えており、TESDA の GAD 施策の策定に貢献している。

上記 GAD イニシアティブでは「TWC は男女同権のシンボル」と記されている。

また、TWC の新戦略 2006-2010 では、TWC のビジョンとして「職業訓練における GAD の最先端のショーケース、そしてアジア太平洋及びフィリピンの“技術を身につけた女性の起業 (Technopreneurship)” のリソースセンター」を目指すことが記されている。

上記イニシアティブ、新戦略は現在、構想がまとまった段階であり、今後 TESDA 内での協議を経て、承認される手続きを踏む。

職業訓練分野におけるジェンダー主流化は、TESDA ジェンダー担当者の能力向上 (Gender Sensitivity の向上) を通じて広く定着しており、一部の TESDA ジェンダー担当者は既に地域におけるジェンダー主流化のための活動を実施している。例えばリサール州の TESDA ジェンダー担当者は TWC の支援を受け、Gender Sensitivity Training を実施している。

したがって、このまま TWC の機能が維持されるのであれば、上位目標は達成可能と思われる。

しかし上位目標の達成は調査研究及びそこから抽出される提言によって実施されるというよりはむしろ、TWC の活動を通じたジェンダー主流化の実践が TESDA の GAD 委員会等に報告されることによって、それらのグッド・プラクティスが職業訓練分野のジェンダー主流化を促進す